

## クルマ・バイクの故障、 トラブルの受付

### JAFロードサービス救援コール

全国共通、24時間年中無休

 **0570-00-8139**

通話料有料(固定電話1分/11円、  
携帯電話20秒/11円)。IP電話等か  
らはご利用いただけません。携帯電話  
の無料通信分対象外。

または短縮ダイヤル <sup>ショートハイダイヤル</sup>  
**#8139**

通話料有料。固定電話[ダイヤル回線]およ  
びIP電話等からはご利用いただけません。

※JAFスマートフォンアプリ(Android & iOS対応)からも  
救援要請ができます。

## 住所変更などの各種手続き、 会員サービスのご案内

### 総合案内サービスセンター

全国共通

9:00～17:30(年末年始休業)

 **0570-00-2811**

通話料有料(固定電話1分/11円、  
携帯電話20秒/11円)。IP電話等か  
らはご利用いただけません。携帯電話  
の無料通信分対象外。

通話定額プランをご利用の方は

 **048-840-0036**

## ウェブからの お問い合わせ

<https://support.jaf.or.jp/>

カテゴリごとに整理されたFAQ(よく  
あるご質問)やお問い合わせフォーム  
をご利用ください。

## JAFマイページ

<https://www.jaf.jp/>

住所・電話番号の変更など各種手続き  
がウェブで簡単にできます。

発行/一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)

〒105-0012

東京都港区芝大門1-1-30


日本自動車会館

制作/(株)JAFメディアワークス 2023年6月



# JAF

一般社団法人 日本自動車連盟

JAF   検索

JAFについてご紹介します。

# about JAF



一般社団法人

日本自動車連盟

# 安全・安心な 地域社会を支える

## JAFの基本理念

JAFは、自動車ユーザーに対し、安全と安心の支えとなるサービスを提供するとともに、交通の安全と環境のための事業活動を積極的に推進し、健全な社会の発展に貢献します。

## JAFの運営指針

- 1 サービスのJAF  
私たちは、サービス精神をもって、社会のために尽くすことを事業推進の基本とします。
- 2 チャレンジするJAF  
私たちは、つねに問題意識をもって改革を進め、創意工夫と旺盛なチャレンジ精神を発揮して、事業の推進に努めます。
- 3 開かれたJAF  
私たちは、会員をはじめ多くの人々の声に耳を傾け、広く社会に開かれた組織を目指します。



一般社団法人  
日本自動車連盟(JAF)

会長  
**坂口 正芳**  
Sakaguchi Masayoshi

私たちJAFは今年、創立60周年を迎えました。会員数は2023年3月末現在で2,030万1千名に達し、このような節目を迎えることができましたのもひとえに会員の皆さまと、活動を理解してくださる関係者の皆さまのご支援の賜物と心より感謝しております。

JAFは1963年に、訪日外国人ドライバーの増加やモータリゼーションの発展にともない顕在化しつつあった、さまざまな課題を解決するために、海外の自動車クラブなどを参考にして、自動車業界の総意により設立されました。現在、自動車を取り巻く環境は大きく、また加速度的に変化を続けています。

JAFでは、こうした環境変化に対応し、モビリティユーザーのご期待にお応えするため、対話と共創によりつねに変化し続け、会員の皆さまの安全と安心をお守りすると同時に、社会課題への取り組みやドライバーの権益保護、会員サービスの一層の拡充、モータースポーツの振興などの事業活動をすすめています。

ロードサービスでは、電気自動車(EV)や自動運転など進化を続ける自動車技術に対応するため車両、資機材をバージョンアップするとともに、ロードサービス隊員の教育・養成に努めております。

JAFの社会貢献活動については被災地支援をはじめ、交通安全啓発や地域の活性化など多岐にわたっています。

2022年9月に発生した台風15号の上陸では、静岡県で多数の車両冠水被害をもたらしました。JAFでは、発生から2週間にわたり、特別支援隊として他支部から応援車両を派遣し、対応にあたりました。引き続き、被災されたお客さまからの救援要請に的確に対応できるよう、防災訓練などにも積極的に参加し、万が一の際には迅速に救援活動をおこなえる体制を整えてまいります。

また、信号機のない横断歩道での歩行者保護についての調査は2022年度で7回目となり、その結果は毎年多くのマスメディアにも取り上げられています。今回の調査では、停止率が39.8%となり、調査開始から右肩上がりとなっています。しかしながら、いまだ約6割のクルマが停止しない現状があり、引き続き関係機関と連携し啓発活動をすすめてまいります。

会員サービスでは、会員の皆さまの日常でご利用いただける会員優待施設の充実や観光スポットなどをめぐるドライブスタンプラリー、イベントの実施などさまざまな生活シーンで楽しめるコンテンツの拡充をすすめています。

モータースポーツでは、全国各地でのJAF公認競技会の開催を支援してまいりました。今後も各地域のモータースポーツクラブと連携し、より一層の活性化をはかってまいります。

JAFは、よりよいモビリティ社会の実現を目指し、これからもさまざまな活動をおこなってまいりますので、今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



# くるま社会の セーフティネット

お客さまのもとに急行し、迅速にトラブルを解決。  
60年の歴史で培った信頼のロードサービスで  
くるま社会のセーフティネットを実現しています。



効率的な配車管理で  
現場到着をより早く



刻一刻と変化する道路状況のなか、サービスカーと隊員をいち早く現場に派遣するため、「AC III」システムで配車を一元管理しています。この「AC III」の最適運用や拠点ネットワークの維持拡大、稼働台数の確保により、2022年度の現場到着の平均時間は37.7分となりました。

24時間・365日体制  
自宅や外出先の駐車場でも



JAFのロードサービスは、24時間・365日、年間を通じ無休でトラブル対応にあたります。一般道路や高速道路上はもちろん、お客さまの自宅車庫や外出先の駐車場などでの救援要請にも対応します。日時を指定した予約(3時間後～最長1週間後)も可能です。

救援は年間219万件以上  
約14.4秒に1件の割合



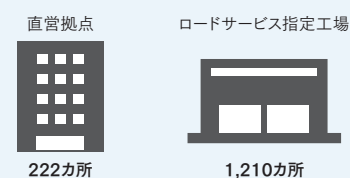
2022年度 ロードサービス出動件数

	2022年度	2021年度
合計	2,195,442件	2,158,586件
うち二輪	84,003件	77,588件
一般道路	2,132,732件	2,102,080件
うち二輪	81,574件	75,545件
高速道路	62,710件	56,506件
うち二輪	2,429件	2,043件

いつでもどこで起こるかわからないクルマの故障や不意の事故。救援要請に対して、即座に全国各地の拠点から隊員が駆けつけ、速やかに車両救援にあたります。2022年度のロードサービス出動件数は219万件以上。お客さまの安全・安心はもちろん、円滑な交通環境の維持に貢献しています。

ロードサービス拠点数(2023年3月末現在)

1,432カ所



全国统一ダイヤルやアプリで  
救援要請も簡単・便利に



お客さまの救援要請には、全国统一の救援ダイヤルや「JAFスマートフォンアプリ」が利用できます。はじめての場所でトラブルに遭っても、アプリならGPS連携で簡単に現場を特定。チャット機能やサービスカーの位置情報を提供するので、待っている間の不安も解消します。

二輪アタッチメント運用で  
バイク搬送対応がスムーズに



2021年度に順次運用を開始していた二輪アタッチメントが、2022年4月から全国に拡大。自走不能なバイクを搬送できるサービスカーが増え、バイク救援への対応がよりスムーズになりました。

2022年度 ロードサービス出動理由

一般道路・高速道路			
1 過放電バッテリー	729,102件	33.2%	
四輪・二輪合計 2 タイヤのパンク・パースト	425,332件	19.4%	
3 破損/劣化バッテリー	161,101件	7.3%	

業界初、ビデオ通話による  
ロードサービス開始



救援を要請したお客さまから、ビデオ通話で直接トラブル内容を聞き、技術的なアドバイスをおこなう「ビデオアドバイザーロードサービス」が2022年10月からスタート。お客さまが言葉で伝えるのが難しい症状やパネルの表示も、画面を通して正確に把握でき、速やかなトラブル解決につながっています。



### 二次事故防止のために 現場の安全確保を徹底



人命と危険防止が最優先。高速道路では後方警戒を徹底し、安全資機材や発炎筒などを使用。また、後続車を認識する警戒装置の導入をすすめています。お客さまには安全ベスト着用のうえ、危険のない場所で待機していただき、夜間は通行車両からの視認性確保に努めています。

### サービス品質を支える 研修・検定制度と競技大会



つねに質の高いサービスを提供できるよう、隊員は日々、実技や接遇、規律性の向上に努めています。キャリアに応じた研修受講や社内検定の受検が義務付けられており、隔年開催\*の「全国ロードサービス競技大会」では、磨き上げたスキルを競い合っています。

\*2021年度はコロナ禍の状況を鑑み中止、  
次回は2023年度に開催を予定しています。

### 全国選抜で編成される ロードサービス特別支援隊



大規模災害発生時に被災地に派遣されるロードサービス特別支援隊。厳しい環境下での作業を求められるため、特に技術力・運転操作技量・忍耐力・協調性に優れた隊員を全国から選抜しています。任命された隊員は非常時に備え、特別な研修や訓練を重ねています。

### 台風豪雨被害の静岡で 14日間のべ342名が活動



ロードサービス特別支援隊は、直近10年間で2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨、2019年の令和元年東日本台風において、被災した道路交通の迅速な回復に努めました。2022年は令和4年台風第15号で冠水被害が相次いだ静岡にのべ342名を派遣し、740件の救援を実施しました。

### 多様なモビリティの トラブル対応を見据えて



電気自動車(EV)や次世代モビリティなど、日々進歩する技術に遅れぬよう、研修や資機材の整備をはじめ、EV給電車両の開発もすすめています。また、多様化するトラブルにはテクニカルサポート課がロードサービス現場からの問い合わせに対応するなど、バックアップ体制を整えています。

### お客さま満足度向上のため アンケート調査を実施



ロードサービスを利用したお客さまを対象にアンケート調査をおこなっています。2022年度のコールセンターおよびロードサービスに対する評価は前年度より向上し、多くの方から「とても良い・良い」との回答をいただきました。結果をさらに精査・分析し、品質向上に役立てています。

### 救援要請が急増しても 近隣からの応援でカバー



全国各地に拠点をもつネットワークを活かして、近隣支部への応援体制を整えています。豪雨や豪雪などで突発的に救援要請が集中し、域内通常体制での対応が難しくなると、スピーディに近隣支部から応援が集まり、救援を待つお客さまのもとに駆けつける仕組みです。

### 関係機関と連携して 地域防災に貢献



災害時を想定し、自治体や警察、消防などとの合同防災訓練を定期的におこなっています。被災車両の救援や緊急交通路の確保など、実践訓練を通して各々の役割を確認。日頃から連携を深めることで、地域防災に貢献できるよう備えています。

2022年度 自治体などとの合同防災訓練への参加実績			
回数	60回	参加隊員数	169名



# 会員優待サービス とイベント

おトクな会員優待からライフサポートまで  
会員ニーズに寄り添った  
最適なサービスを提供します。



飲食店やガソリンスタンドなど  
会員優待施設は約47,000カ所



全国各地のさまざまなお店で、割引や特典が  
受けられる会員優待サービス。対象施設は約  
47,000カ所あり、会員証を提示するだけ（一部  
除く）で手軽に利用できるのが大きな魅力です。  
2022年度も多くの方にご利用いただき、会員優  
待サービス利用者は4,723万名以上となりました。

## いつでもどこでも使える会員優待サービスの強化



全国の会員の皆さまに均  
質なサービスを提供でき  
るように、全国チェーン店  
や地域ならではの施設と  
の優待契約を強化してい  
ます。今後も利用したいと  
思っていたりするような会  
員優待サービスの提供を  
目指します。

### 会員優待施設の主なジャンル

【暮らしの優待】  
グルメ/ショッピング/アミューズメント/カルチャー/アウトドア

【お出かけの優待】  
遊園地・テーマパーク/観光名所/動物園・植物園/美術館・博物館/  
水族館/味覚狩り/旅行/温泉・入浴施設/宿泊施設

【ドライブの優待】  
SA・PA/道の駅/ガソリンスタンド

## JAF優待情報サイト 「JAFナビ」



ウェブサイト「JAFナビ」では、会員優待施  
設の検索ができるほか、期間限定キャン  
ペーンをはじめ、新規優待情報を随時更  
新。利用者の声を参考に、検索用サブ  
ジャンルの追加やキーワード検索方法の  
見直しなど改修を続け、2022年度は前年  
度よりアクセス数が増加しました。

## クーポン利用者は約2倍 「JAFスマートフォンアプリ」



デジタル会員証も表示できる「JAFスマートフォン  
アプリ」。アプリで配信される「JAFアプリクーポン」  
の2022年度利用者は前年度の約2倍となりました。  
特にドラッグストアや牛丼チェーン、DVDレンタル  
など日常生活で使えるクーポンが人気でした。

### 過去2年の「JAFアプリクーポン」利用者数

年度	利用者数
2022年度	2,129,714名
2021年度	1,056,822名

## 切り取りクーポンが満載 『JAF PLUS』



機関誌「JAF Mate」に同梱の「JAF PLUS」で  
切り取りクーポンや旬のおトク情報をお届けして  
います。2022年度から年4回のお届けになりまし  
たが、クーポン利用者は1,582万名以上。「JAF  
アプリクーポン」とともに根強い人気です。

### 2022年度「JAF PLUS」クーポン利用者数

15,820,402名
-------------

## 永年継続会員の皆さまだけの 特別な優待サービス



10年以上継続の個人会員を対象に、特別な優  
待サービスを用意。さらに30年以上継続の方は、  
国内旅行企画「JAF旅!」も利用できます。

### プレミアムサービス

	10年以上	20年以上	30年以上
永年ステッカー進呈	○	○	○
プレミアム優待	○	○	○
トラベルデスク	○	○	○
JAF旅! ～特別な国内旅行企画～	—	—	○

## 海外旅行先のレストランや ホテルなどでもおトクに



会員は海外旅行先で現地自動車クラブのロード  
サービスを受けられるほか、世界10以上の国と  
地域でレストランやホテルなどを特別料金で利  
用できます。一方、訪日した海外の自動車クラブ  
会員に対しては、国内約4,310カ所の施設で優待  
サービスを実施しています。



交流人口増加を促す  
ドライブスタンプラリー



自治体や会員優待施設と協働で開催するイベントのなかでも、特に人気なのがドライブスタンプラリーです。非対面・非接触型で、参加者が好きなタイミングで楽しめる点が人気を集め、2022年度は202コースを実施。スタンプ総押下数は33万回以上と、地域への送客に寄与しました。

学習・体験型イベント  
「いま、私たちの未来を考える」



環境問題や地域課題について考えるイベントを全国各地で開催しています。2022年11月に愛知支部主催でおこなった「触れる学べる水産業！三谷水産高校バックヤードツアー」では、参加者がウナギのエサやりなどに挑戦しながら「海の大切さ」と「水産業」について学びました。

地域性を活かした  
楽しい会員向けイベント



全国8地方で実施する大規模な「JAFフェスティバル」や、支部ごとに地域性を活かした「JAFデー」などのイベントを全国各地で開催しています。オンラインサービス「e-JAF予約」でイベント検索・申し込み・決済をおこなうことができ、参加手続きも簡単です。

JAF会員はポイント2倍  
通販サービス「JAF通販紀行」



「JAF通販紀行」では、JAFオリジナルトミカのほか、おしゃれを楽しむファッションアイテムから、あると便利な雑貨まで、豊かなカーライフを応援する商品を厳選しています。JAF会員はお買い物で貯まる「J.S.サンクスポイント」が2倍になり、貯まったポイントはお支払いに使えておトクです。

販売：(株)JAFサービス

産学官連携による  
地域活性化プロジェクト



大学や自治体などと連携して取り組む地域振興は、7地方本部18支部が25校\*と活動しています。中部本部では「東海・北陸学生ドライブスタンプラリーコンテスト2022」を開催。学生たちがアイデアを出し合い、最優秀賞の企画は、2023年2～5月に実施されました。

※2023年3月末現在

自治体との連携で  
地域振興活動を推進



全国の自治体や観光協会などと連携し、地域振興および会員満足度の向上をはかっています。2022年度から地域課題解決の取り組みのひとつとして、観光地や過疎地、交通網衰退地域などで新しい移動手段として期待されている「グリーンローモビリティ」導入の業務支援をスタートしました。

暮らしの安心も提供する  
「JAFライフサポート」



クルマに関する不安だけでなく、あらゆるシーンで頼れるJAFになりたい。家計にうれしい会員優待サービスに加え、健康や生活に関する不安解消をサポートするサービスも用意。60年の歴史で信頼を培ってきたJAFだからこそ、暮らしにも安心をお届けできると考えています。

「JAFライフサポート」4つのサービス

● JAFのホームライフサポート  
24時間365日、お家まわりのトラブルにいつでも対応  
(JAF会員:2,200円/年 一般の方:3,300円/年)  
業務委託先:ジャパンベストレスキューシステム(株)



● JAFの保険  
医療保険、傷害保険から、介護保険まで各種商品を用意  
保険代理店:(株)JAFサービス保険部  
保険引受会社:朝日生命保険(相)/東京海上日動火災保険(株)/三井住友海上火災保険(株)



● JAFの保健室  
カラダに関する不安や疑問の解消をサポートするオンライン医療サービス(登録から30日間無料)  
業務委託先:(株)メディカルノート



● JAFでんき  
電気代は地域の従量電灯相当で、JAF個人会員年会費4,000円分相当の特典\*が毎年もらえる  
※特典提供には条件あり  
サービス提供元:auエネルギー&ライフ(株)





# 社会課題への取り組み

交通安全のさらなる普及のために  
自動車ユーザーの声に耳を傾けながら  
くるま社会が抱える課題に向き合います。



## 実車を使って学べる 実技講習会



運転に苦手意識や不安を抱えるドライバーのために、マイカーを使った参加体験型講習や車庫入れ講習を各地で開催しています。インストラクターの指導のもと、公道ではできない実技体験を通じて、自身の運転を確認することができます。

### 2022年度 実技講習会 開催実績

	開催数	受講者数
ドライバーズセミナー	一般コース 31回	289名
	シニアコース 48回	406名

## 環境にやさしい運転 「エコドライブ」を推進



省エネやCO<sub>2</sub>の排出を抑えた「エコドライブ」を学べるのが「エコドライブ講習会」。講習では実車を使ってコツを学び、実際に燃費を計測して効果を確認します。普段から実践することで、燃費改善はもちろん、安全運転にもつながります。

### 2022年度 エコドライブ講習会 開催実績

開催数	45回
受講者数	1,319名

## 全席シートベルト着用の 重要性を呼びかけ



### 2022年度 シートベルト 効果体験 開催実績

開催数	744回
体験者数	89,971名

### 2022年度 チャイルドシート取り付け 点検 開催実績

開催数	79回
受講者数	540名

交通事故の際、運転者や同乗者の身を守るシートベルト。その着用の重要性を訴える啓発活動をおこなっています。企業や学校などを対象に、シートベルト効果体験車による時速約5kmの衝突体験や、チャイルドシート取り付け点検を開催。ウェブサイトでは実験動画を公開しています。

## 子どもも大人も楽しく学べる 交通安全体験ツール



交通安全イベントで人気なのが、クイズに答えて発行される「子ども安全免許証」や反射材効果を視認できる「リフレクBOX」。気軽に交通安全を学べるオリジナルツールを開発し、より多くの方に安全意識を持っていただくことを目指しています。

### 2022年度 交通安全体験ツール 体験者数

子ども安全免許証	145,870名	反射材効果体験	23,624名
----------	----------	---------	---------

## 高齢者の安全運転を 講習会やウェブでサポート



かねてから社会問題になっている高齢ドライバーの交通事故。JAFではシニア向け実技講習会を開催するなど、高齢者の安全運転支援を強化。「エイジド・ドライバー総合応援サイト」では、オンライン上で認知・目・耳の機能の確認とトレーニングができるメニューを用意しています。

## クルマの疑問を検証する 「JAFユーザーテスト」



1983年にスタートした「JAFユーザーテスト」。自動車ユーザーが日頃感じている疑問や不安について、実験を通して検証しています。2022年度は4つのテーマを取り上げ、ドライバー目線に沿った実験を実施。検証結果はYouTubeやウェブサイトで公開し、報道機関にも提供しています。

### 2022年度 JAFユーザーテスト テーマ

バックカメラに死角はないのか？
パンク応急修理キットでどこまで修理できる？
ドライバーを眩惑する、強烈な日差しを避ける方法は？
飲酒による運転への影響は翌日まで続くのか？

## YouTuberとコラボレーション



安全運転の知識をわかりやすく解説するコンテンツとして、YouTuberの木村亜美氏とコラボした動画を制作。2022年度は「教えて！JAF先生」シリーズの動画を3本公開。



### 危険予知トレーニングなど ウェブで学べる交通安全



パソコンやスマートフォンなどで交通安全のポイントを学べるウェブコンテンツ。2022年度は動画の拡充をはかり、『「実写版」危険予知・事故回避トレーニング』の「交差点編」「坂道編」「自転車編」に新規動画を各1本追加したほか、新設した「狭路編」を公開しました。

#### ウェブサイトで公開中の主な交通安全啓発コンテンツ

「実写版」危険予知・事故回避トレーニング
動画でCheck! 交通安全カテゴリ-10
エイジド・ドライバー総合応援サイト(高齢運転者向けウェブトレーニング)
交通安全3分トレーニング(危険予知クイズ)
360度VR動画
クルマ何でも質問箱
私にもできるマイカー点検
JAF Safety Light (ヘッドライトの使い方)
後席シートベルトの安心力
はじめてのチャイルドシート クイックガイド
ジュニアシートはもう要らない?

#### もしもの状況を疑似体験する「360度VR動画」

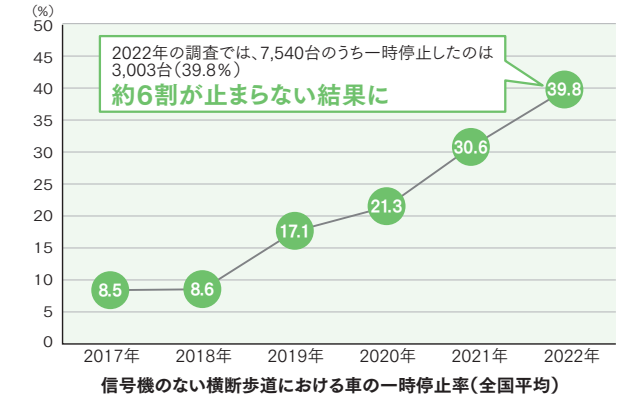


映像を360度自由に動かして視点を変えることができ、VRゴーグルを使えば、より臨場感のある映像体験が可能。車両衝突やクルマの水没などのVR動画を公開中。

### 「信号機のない横断歩道での 車の一時停止状況」全国調査



2022年で7回目となった「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況」全国調査。一時停止率の全国平均は39.8%と過去最高でしたが、依然として約6割が止まらないのが現状です。なお、本活動は毎回広く報道され、全国的な交通安全啓発につながっています。



#### 「思いやりティドライブ」プロジェクト



「全てのクルマが思いやりいっぱいだったら、もっと素敵な交通社会が成り立つはず」。そんな思いを叶えるために、交通ルールやマナーを守ることの大切さを発信。一人ひとりの思いやりには社会を変える力があることを訴え、「共感の輪」を広げる活動を展開しています。

### 先進安全自動車の 正しい知識を啓発



安全運転を支援する「先進安全自動車(ASV)」ですが、ユーザーがその機能を過信・誤認しているケースも少なくありません。そのため、衝突被害軽減ブレーキや車間距離制御装置などの代表的な機能をわかりやすく解説したCG動画をウェブサイト公開。ASVの正しい知識を啓発しています。

### 地域や法人に講師を派遣 オンライン講習会も実施

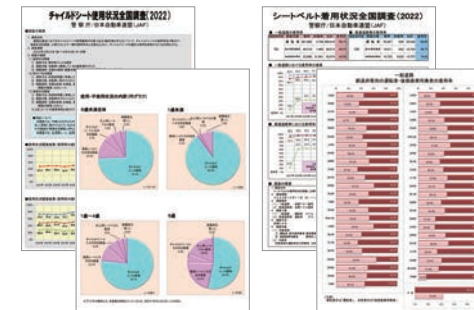


自治体や企業、学校からの依頼を受け、交通安全講習会や企業内研修に講師を派遣しています。依頼元に向向出張型講習のほか、オンラインでも実施。プログラムは、JAFがこれまで蓄積してきたオリジナルデータを活かした内容です。

#### 2022年度 座学型交通安全講習会実績

回数	3,920回	受講者数	578,640名
----	--------	------	----------

### 全国実態調査と ウェブアンケート



さまざまな調査を実施し、自動車ユーザーの意識・実態の把握に努めています。集めたデータは交通安全啓発やマナー向上活動などに活用しています。

#### 2022年度 全国実態調査とウェブアンケート

4~6月	チャイルドシート使用状況全国調査(警察庁・JAF合同調査)
7月	自動車税制に関するアンケート調査
8月	「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況」全国調査
10~12月	シートベルト着用状況全国調査(警察庁・JAF合同調査)

### クラウドファンディングで やさしさあふれる交通社会を



介助犬育成、ジュニアシート提供の支援に続き、2022年度は「災害時に無償でクルマを貸し出し、被災者の生活再建を後押しする活動」への支援を目的にクラウドファンディングを実施。支援金は一般社団法人日本カーシェアリング協会に寄付し、クルマの管理などに役立てていただきました。



### 道路交通環境に関する改善提案活動



道路環境に危険や不便がないか、ドライバーから意見を募り、調査・検討して関係機関に改善を提案する「交通安全実行委員会」。信号機の設置状況や標識の不具合など、2022年度は集まった413件のうち、362件を提案。以前からの案件を含め、98件が改善されました。

### 子どもたちに交通ルールを教える「ドレミぐるーぷ」



幼稚園児・保育園児とその保護者を対象に、音楽を通じて交通ルールを守ることの大切さを伝えているのが「JAF交通安全ドレミぐるーぷ」です。音楽愛好家らのボランティアグループによる協力を主体に運営されています。

2022年度「JAF交通安全ドレミぐるーぷ」開催実績

公演数	64回	参加人数	4,978名
-----	-----	------	--------

### 新しい交通安全の取り組み eラーニング事業スタート



2022年9月にサブスクリプションサービス「JAF交通安全トレーニング」をリリースしました。企業や団体の方を対象に、交通安全教育を目的としたサービスで、JAFが教材を監修。長年培ってきた知識やノウハウをeラーニング形式で提供します。運営：(株)JAFメディアワークス

### FIA加盟団体としてグローバルに活動



世界の自動車クラブで構成されるFIA(国際自動車連盟)に加盟し、世界第3位の会員数を誇る団体として国際活動に参画。2022年度はFIA総会週間会議やFIA地域IIラウンドテーブルなどの対面会議に出席。各クラブと議論・情報交換をおこない、諸問題の解決に取り組みました。

### 自動車税制見直しを求める要望・提言活動



「だれもが納得できる公平・公正・簡素な自動車税制を」。その実現に向け、2022年度も改善要望を各政党、関係省庁などに提出しました。残念ながら抜本的な見直しは先送りになりましたが、JAFは今後も自動車ユーザーの声を代弁しながら、さまざまな要望活動を続けていきます。

### 2022年度 自動車税制対策活動

- 自動車税制に関するアンケート調査  
2022年7月に実施し、回答者は135,282名。自動車にかかる税金を負担と感じる比率は98%で「非常に負担」と答えた割合は3年間で8ポイント増加。ここ数年自動車ユーザーの重税感がまったく緩和されていないことが調査結果から明らかに
- 自動車ユーザーの生の声を集める活動  
全国各地のイベント来場者から、クルマの税金に関する意見や要望を収集。集まった2,077名の「生の声」はウェブサイトでも公開
- 街頭活動  
札幌・函館・栃木・静岡・愛知・三重・愛媛支部で関係団体とともに街頭活動を実施
- 要望・提言活動  
「2023年度税制改正に関する要望書」をとりまとめ、各政党、関係省庁、国会議員などに提出
- SNSで情報発信  
Twitterの公式アカウントで自動車税制見直しを求める訴えを投稿。大きな反響を呼び、ネット上でも話題に



### 外国運転免許証の切り替えをサポート



日本の運転免許証への切り替え時や日本で運転する(特定国・地域に限る)際に必要な外国運転免許証の「日本語翻訳文」を発行。また、車両を海外へ一時輸出・輸入する際の通関手続きを簡素化する「自動車カルネ」を発行・認証しています。

過去2年の「日本語による翻訳文」発行件数

2022年度	77,120件	2021年度	48,162件
--------	---------	--------	---------

### 外国人のための通訳サービスや情報提供



コールセンターやロードサービスでは、21言語対応の通訳サービスを導入。また、英語版コーポレートサイトでは日本の交通ルールをクイズ形式で学べるコンテンツなどを公開。自動車を利用する外国人をサポートしています。

過去2年の通訳サービス実施件数

2022年度	1,637件	2021年度	1,187件
--------	--------	--------	--------



# モータースポーツの振興

競技参加のきっかけづくりから  
モータースポーツ観戦の魅力発信まで  
広く普及・振興に取り組んでいます。



## 全国8カ所で同時開催 オートテストの促進



ライセンスがなくても、マイカーで手軽に参加できる「オートテスト」。日本導入8年目にあたる2022年は、年間で112回、3,085名が参加しました。11月には、さらなる認知度向上のために「全国一斉オートテスト」を初開催。北海道から九州まで、全国8カ所で322名が楽しみました。

## 通算21回目 伝統のJAF鈴鹿グランプリ



国内フォーミュラの最高峰「全日本スーパーフォーミュラ選手権」のうち、最終戦に冠される「JAFグランプリ」。2022年は10月に鈴鹿サーキットで開催。野尻智紀選手がシリーズ2連覇を果たし、その年最も輝いた競技運転者として「ドライバー・オブ・ザ・イヤー2022」も受賞しました。

## モータースポーツの 普及・振興



JAFは日本で唯一のFIA(国際自動車連盟)公認の統轄団体です。国内競技が安全・公平・公正におこなわれるよう尽力するとともに、振興イベントの開催や女性参加の支援など、競技人口とファン層のさらなる拡大に努めています。

### 過去2年間の競技会公認件数

2022年	800件
2021年	678件

## 年間7万件以上の ライセンスを発給



2022年1月にJAF入会の有無や年齢を問わず取得できるゴーカートライセンスを新設。9月からは四輪国内Bライセンス/公認審判員B3級講習会をオンラインで常時受講可能とするなど、ライセンス取得の促進をはかっています。

### 過去2年間の競技ライセンス発給数

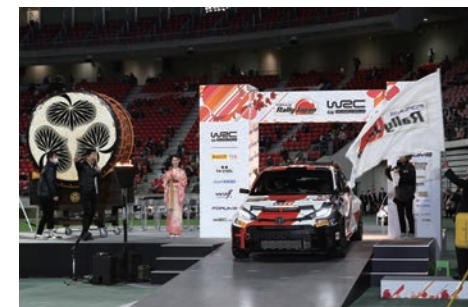
2022年	72,000件
2021年	72,188件

## 「モータースポーツジャパン」など 振興イベントを開催



JAF主催の振興イベントとして、2022年11月、東京・お台場で「JAFモータースポーツジャパン2022」を開催。従来の車両展示のほか、今回は環境対応をテーマに「JAF Eco Rally Tokyo Demonstration」やフォーミュラEのデモ走行を実施。2日間で約7万人以上が来場する賑わいでした。

## FIA世界選手権の 日本開催を支援



2022年は、国内で各種FIA世界選手権が開催されました。3年ぶりの「富士6時間耐久レース」や「F1日本グランプリ」、12年ぶりとなる「フォーラムエイト・ラリージャパン2022」などの開催にあたり、JAFは関係者入国サポートをはじめ、国際競技の日本開催を支援しました。

## 年間チャンピオンと 上位入賞者を表彰



国内モータースポーツの1年を締めくくる表彰式が、2022年11月25日に都内でおこなわれ、各カテゴリーのチャンピオンや6位までの入賞者271名が一堂に。特別賞の授与にはスポーツ庁長官・室伏広治氏が登壇。恒例となったeスポーツのエキシビジョンマッチが会場を沸かせました。



# コミュニケーション

クルマに関する役立つ知識からおトク情報まで  
うれしいニュースをリアルタイムで発信。  
アプリをはじめ、各種情報発信ツールも充実しています。



## JAFスマートフォンアプリ

Android & iOS 対応

便利な機能を備えた公式アプリ  
JAFのサービスをスマホひとつで快適に

JAFのサービスを簡単・便利に利用できる「JAFスマートフォンアプリ」。デジタル会員証・優待施設検索・ロードサービス救援要請機能をメインに、その他のサービスにもスムーズなアプローチが可能です。  
利用者からは「ロードサービスを簡単に呼べて安心」「アプリクーポンがおトクでうれしい」といった声をいただいております。特に好評のクーポンは年々利用者が増加。今後はさらに顧客ニーズを重視したクーポン配信により、満足度向上をはかります。  
2022年度も新規登録促進キャンペーンを積極的に展開し、2023年3月末現在、アプリ登録者は前年度から約80万名増え、5,943,100名になりました。



詳細・ダウンロードはこちらから

## 機能紹介

### デジタル会員証

※個人会員・家族会員限定



ロードサービスや会員優待サービスも、デジタル会員証の画面提示で利用できます。

### クーポン・会員優待施設検索



全国各地のクーポンを配信。現在地や地図、エリアなどから、優待施設の検索もできます。

### ロードサービス救援要請



GPS機能との連携で救援場所を特定。質問に答えるだけの簡単操作でJAFを呼べます。

## ウェブサイト

### コーポレートサイト



ロードサービス、交通安全、地域ニュース、企業情報など、JAFの活動やサービスを幅広く紹介。「マイページ」では、会員自身が登録情報の確認・変更などを行うことができます。

### JAF Mate Online



機関誌『JAF Mate』のオンライン版として2022年3月に公開。自動車、安全運転、ドライブ・旅行、ライフスタイルなど、カーライフや暮らしに役立つ記事を日々更新しています。

### JAFナビ



JAF優待情報サイトとして、アプリ同様、簡単に優待施設検索ができるほか、全国各地のドライブ・観光・イベント情報を紹介。会員向けプレゼント企画も充実しています。

### JAFモータースポーツ



モータースポーツ各競技の概要・歴史から最新ニュースまで、どなたでも楽しめるコンテンツが満載。2022年度はサーキットの魅力伝える特設ページを新たに公開しました。

## 機関誌など

### 『JAF Mate』



年4回、会員の皆さまにお届けしている機関誌。ドライブ旅行記事「日本の魅力、再発見」をはじめ、交通安全情報、会員サービス案内などを掲載。ウェブサイト「JAF Mate Online」でも記事を配信しています。

対象	個人会員、法人会員
発行部数	2023年春号 13,307,950部

### 『JAF PLUS』



『JAF Mate』と同梱してお届けしている情報紙。人気の切り取りクーポンをはじめ、お住まいエリアの優待施設情報を掲載。季刊化にともない、期間限定優待は「JAFアプリクーポン」にて引き続き提供しています。

対象	個人会員、法人会員
発行部数	2023年春号 13,197,850部

### 『JAFスポーツ』



ライセンス保持者に年4回送付している季刊誌。モータースポーツ界の最新ニュースはもちろん、迫力ある写真とともに紹介する競技の詳細レポート、ドライバーのインタビューなどは読み応えたっぷり。

対象	ライセンス保持者
発行部数	2023年春号 48,230部



## ソーシャルメディア

詳しくは



### Twitter

- JAF
- JAF モータースポーツ
- JAF\_PLUS\_Tokyo



情報拡散やユーザーとの双方向コミュニケーションツールとしてTwitterを活用しています。2006年にはじめた「JAFみんなのエコ川柳」を、2022年度はTwitter(JAF公式アカウント)での募集に変更。今回は「エネルギー問題」をテーマに川柳を募集し、1,945の作品が集まりました。

### Facebook

- JAF 日本自動車連盟
- JAF モータースポーツ



公式アカウントは2つ。JAFの最新ニュースや交通安全、クルマに関するお役立ち情報のほか、モータースポーツファンの気になる情報などを発信しています。

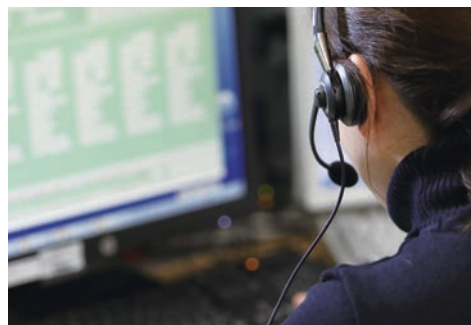
### YouTube

- JAF Channel
- JAF MOTORSPORTS



「JAF Channel」ではJAFユーザーテストや、危険予知・事故回避トレーニング動画などを公開。国内四輪モータースポーツ専門チャンネル「JAF MOTORSPORTS」には迫力ある競技動画が満載です。

## 対応品質とお客さま満足度の向上を目指して



### コールセンター／支部窓口

「総合案内サービスセンター」では、各種手続きや優待サービスなどの案内を一括して担当。応答率や対応品質向上をはかり、2022年度のコールセンター格付け調査で「三つ星」を獲得しています。また、支部窓口では、待ち時間短縮や混雑回避のため、来店の前予約サービスを実施。いずれも、お客さまへのスピーディな対応に努めています。

会員数 **20,301,304**名

前年度20,099,526名(1年間で201,778名増加)

運転免許保有者の約4人に1人が会員です

### 8地方本部と全国の在籍会員数

**北海道本部** 会員数805,260名

札幌支部 函館支部 旭川支部  
釧路支部 帯広支部 北見支部

**東北本部** 会員数1,464,273名

青森支部 岩手支部 宮城支部  
福島支部 秋田支部 山形支部

**関東本部** 会員数6,600,589名

新潟支部 長野支部 茨城支部 栃木支部 群馬支部  
埼玉支部 千葉支部 東京支部 神奈川支部 山梨支部

**中部本部** 会員数4,071,047名

富山支部 石川支部 福井支部 岐阜支部  
静岡支部 愛知支部 三重支部

**関西本部** 会員数3,257,391名

滋賀支部 京都支部 大阪支部  
兵庫支部 奈良支部 和歌山支部

**中国本部** 会員数1,207,377名

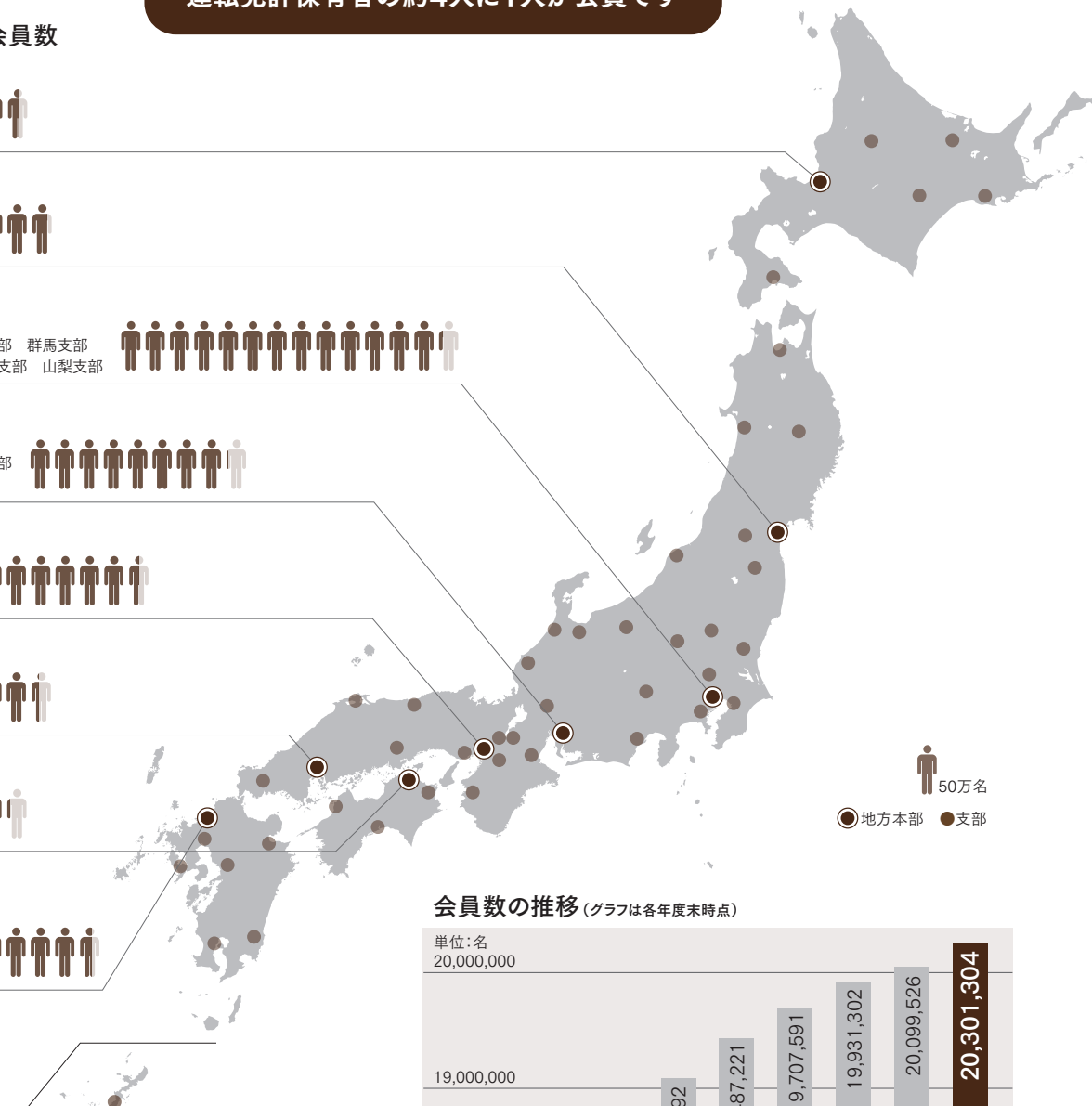
鳥取支部 島根支部 岡山支部  
広島支部 山口支部

**四国本部** 会員数594,784名

徳島支部 香川支部  
愛媛支部 高知支部

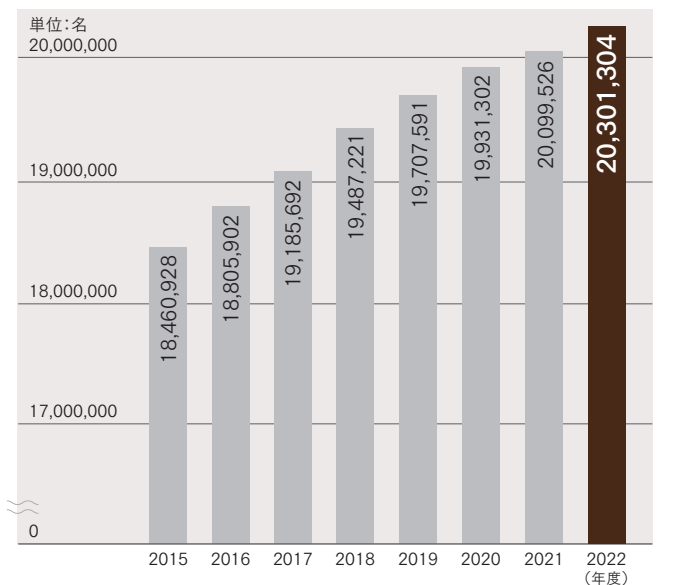
**九州本部** 会員数2,300,583名

福岡支部 佐賀支部 長崎支部  
熊本支部 大分支部 宮崎支部  
鹿児島支部 沖縄支部



50万名  
● 地方本部 ● 支部

会員数の推移(グラフは各年度末時点)



### 一般社団法人 日本自動車連盟(JAF)

創立	1963年(昭和38年)4月1日
活動拠点	1本部/8地方本部/52支部
職員数	3,370名

### 会員

種類	会員数
個人会員	13,251,746名
家族会員*	6,191,012名
法人会員	858,546名

\*個人会員と同居または生計を同一にする家族(個人会員1名につき5名まで)